



平安だより 2020年5月号 平安幼稚園

「神様はおられます」 牧師・園長 北川正弥

『どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。』

新約聖書 フィリピの信徒への手紙四章六節

「平安幼稚園は神様の幼稚園です。」と僕の前の前の園長である金澤勤先生は、式典のたびにおっしゃっていました。その言葉を僕とは、お父さんとして聞いていました。まさか自分が後に園長になるとは思いもせずに……。この金澤勤先生の言葉は「神様の幼稚園」と「そうでない幼稚園」があると言う意味ではありません。教会は、この世界の全てを神様がつくられたと信じています。ですからすべての子供は神様の子供であり、すべての幼稚園が神様の幼稚園なのです。金澤先生の言葉は「平安幼稚園は神様を知っている、信じている子ども達の幼稚園です。」と言う意味だったと僕は思います。でも特に今、神様を信じると言うことについて、疑問を感じられる方も少なからずおられるのではないのでしょうか。コロナウィルスの感染が拡大し、世界中が困っているこの時、当然世界中の教会で、神様に対して「この苦しみを取り去ってください。」と言う祈りが献げられています。でも感染の拡大はなかなかおさまりません。命を失う方、生活が困窮しておられる方々がたくさんおられます。「神は、人がこれほど祈り願っても、苦しみを取り去ってはくれないの

か。」「神は祈りを聞いていないのか。」「いや神などいないのだ。」そう思われる方がいるのは当然のことです。それに対して僕は牧師でありながら、説明の言葉を持ちません。神様がいると言う証拠を示すこともできません。ただ牧師として自分ができることは「それでも神様はいる、その神様はわたしたちを愛してください。」「私たちには想像もつかないような計画を持っていてくださるのだ。」と言い続けることだけです。東日本大震災の時に、被災された方がテレビのインタビューに答えて「神などいないことがよくわかった。」とおっしゃっているのを聞きました。僕はその時「今きっと多くの人が同じことを思っているだろう。だとしたら教会はなくなるかもしれない。」と思いました。あの時も教会は、牧師は、僕は、説明の言葉を持ちませんでした。教会と牧師、僕にできたのは「それでも神様はいる、そしてその神様はわたしたちを愛してください。」「私たちには想像もつかないような計画を持っていてくださる。」とどのような批判を浴びても言い続ける覚悟を持つことだけでした。そこで僕たちまでもが、神様はいないのではないかと、神様はいたとしても私たちを愛していないのではないかと、今起こっていることには何一つ理由などないのではないかと疑うようになったら、本当に希望が失われてしまふと思っただけです。結果として教会はなくなりませんでした。実は教会はいつ無くなっても不思議ではなかったのです。大きな災害や戦争は何度もありましたし、教会自身が間違いを犯してしまった歴史もありました。それでも教会は「神はいる、そしてその神はわたしたちを愛してください。」「私たちには想像もつかないような計画を持っている」と覚悟を持って言い続けることで存続してきましたし、そのことが誰かの希望になってきたのだと僕は信じています。だから僕はいい続けるのです。「神様はおられます。」